

学会参加報告記

45th Annual Meeting of The Egyptian Society of Neurological Surgeons in collaboration with The Japan Neurosurgical Society に参加して
2025.5.21~22 Cairo, Egypt

埼玉県立小児医療センター 脳神経外科
宇佐美 憲一

2025 年 5 月 21 日から 22 日にかけて、エジプトのカイロで開催されました「第 45 回エジプト脳神経外科学会 (45th Annual Meeting of the Egyptian Society of Neurological Surgeons) と日本脳神経外科学会の合同開催学会に参加させていただきましたので、ご報告いたします。

今回の学会は、エジプト脳神経外科学会会長の Ibrahim Ewas 先生、日本脳神経外科学会理事長の齊藤延人 先生のもと、「古代文明の出会い (Old Civilizations Meeting)」という壮大なサブタイトルを掲げて開催されました。会場となったのは、カイロ市内のナイル川沿いに位置する The St. Regis Hotel(下図)で、非常に豪華な雰囲気の中、活発な議論が交わされました。



ホテル全景（会場の写真がなかったのでインターネットから拝借しました）

5 月のカイロはすでに乾季の暑さでしたが、日差しが強い一方で湿度が低く、過ごしやすい気候でした。学会の合間には、遠くにギザのピラミッド群を望むことができ、まさに「古代文明の出会い」というテーマを肌で感じる滞在となりました。

今回は日本脳神経外科学会との合同開催ということもあり、齊藤理事長、黒田敏国際委員長をはじめ、総勢 27 名の日本人演者がカイロの地に集結しました。エジプト側の先生方

からも温かい歓迎を受け、セッションの随所で両国の活発な交流が見られました。プログラムは2日間にわたり、Hall AとHall Bの2会場で脳腫瘍、血管障害、脊椎、機能、小児、頭蓋底といった脳神経外科の全分野を網羅するセッションが繰り広げられました。

特に印象的だったのは、2日目のプレナリーセッションにおける、Mohamed Fathy 先生による「History of neurosurgery in Egypt」と、黒田敏先生による「History of neurosurgery in Japan」の講演です。両国の脳神経外科が辿ってきた進歩と、その歴史的背景を共有する貴重な機会となりました。特にエジプトの歴史については、国の数千年にわたる文明史にまで遡ってご紹介があり、そのスケールの大きさに圧倒されました。



Hall A の様子

JSPNからは赤井卓也先生、加藤美穂子先生、井原哲先生、君和田友美先生、そして私宇佐美の5人が1日目の「Pediatric Neurosurgery I」2日目の「Pediatric Neurosurgery II」のセッションに分かれて発表しました。私は「Intracranial arachnoid cysts in children」というタイトルで口演発表の機会をいただきました。



参加した JSPN のメンバー 赤井先生が写っておりませんが・・・
右から加藤美穂子先生、井原哲先生、君和田友美先生、そして宇佐美



宇佐美の発表の様子

また、学会前日にはオフィシャルツアーとしてギザのピラミッド群や大エジプト博物館を訪れ、エジプトの悠久の歴史に思いを馳せる時間も持つことができました。これもまた、学会テーマである『古代文明の出会い』を実感する貴重な体験でした。

今回の学会参加は、エジプトという国の歴史と文化の奥深さに触れると同時に、同国の脳神経外科のレベルの高さと情熱を実感する、非常に有意義なものとなりました。

なお、次回の ISPN 2026 はカイロで開催されます。大会長をお務めになる Mohamed El Beltagy 先生には、当初重複していた日本脳神経外科学会総会との日程をご調整いただくという、格別のご配慮をいただきました。今回の Lyon での ISPN 2025 においても、国際学会に初めて参加し堂々と発表する若い先生方の姿が多く見られ、大変心強く感じました。El Beltagy 先生のこのご厚意に応えるためにも、次回のカイロ大会には、こうした若い先生方はもちろん、ベテランの先生方も含め、日本から一人でも多くの先生方と共に参加し、活発な議論を交わせればと願っております。

(2025 年 11 月 17 日)